

春
夏
秋
冬

4

四季のコンサートだより

1988年9月1日発行
浜松音楽友の会
事務局 浜松市東伊場1-10-307
電話連絡 54-1746(高田)

音楽会とおんが苦会

小川雄一郎

或る友人から「クラシックの音楽会は椅子にきちんとかまこまって、お行儀よく聞くものと言う人があるが、やはりそうかね」と尋ねられたことがあった。その時思い出したのは次の二つの音楽会である。

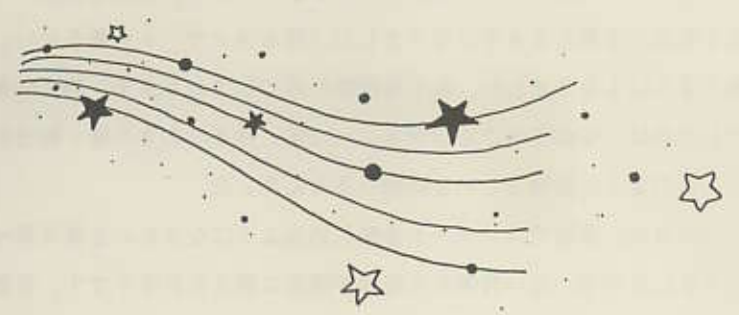
まずそのひとつ、大変有名な女流ピアニストがス、と舞台上に登場しピアノの前に座って、客席の方を斜めに見乍らなかなか始めようとしなない。他ならぬ客席がざわめいて止まないからである。演奏者は神経が集中できなくて弾き始めにくいのだろうが、それとても限度があろうというもの、弾き始めてしまえば客席も自然に静かになるものだ。や、暫らくして演奏は始まったが、大変ヒステリックで結局その音楽会はおんが苦会に終わった。それは僕だけが受けた感想でなく、他の人も主催の人さえも「あれは少し行き過ぎでしたね」と、そのピアニストのかたくなさを批判していた。(友の会主催ではありません、念のため)

それから、東 敦子といえば世界的なオペラ歌手だ。日本にはオペラ劇場がなく彼女の活躍する場がないので日本に居ることが少なく、滅多に聞くことができない人だ。声楽は僕にとって馴染みの薄い分野だがそのネームヴァリュウに惹かれて出掛けた。行ってみてよかった。というのも、前半は他の音楽会同様に比較的緊張した雰囲気だったが、途中の休憩時間を挟んで第二部が始まる前にインタビューの場面があった。その時からその夜の音楽会は一変した。インタビューの中で彼女の若い頃のアメリカにいた時の話、オペラはイタリア語のものが多く、あの張りあげたイタリア語は当のイタリア人でも半分位しか解らないという話、明日は皇太子、皇太子妃が国賓を御招待しての晩餐会で歌うためにとんは返りで今晚中に東京へ帰らなきゃならない、という思いもよらぬエピソードも飛び出して笑ったり感心したり、続く第二部はこのインタビューが切っ掛けで一曲毎に彼女自身の解説付きのコンサートになった。そしてアンコールも盛大に、その夜の音楽会は大層楽しく且つ感銘深いものになった。これはこの会の初年度の冬のリサイタルだったから、もう四年も前のことだ。

以上で、友人の質問に対する答えが出たように思います。クラシックも決してかた苦しいものではないこと、音楽会はステージと客席が協力して楽しく作り上げるもの、もうひとつ裏方さんの目立たないお世話があることも忘れてはいけないと思います。そして客席は「さあ聴く用意ができましたよ」、演奏者は「では一生懸命やりましょう」……「今のはとても素敵でしたよ」、「有難う」こんな具合に音楽会が進行すればブラボーだ。



87年秋
岡田博美氏と



“ふれあいおんがくかい”に思う

小笠原裕子

毎回“ふれあいおんがくかい”を楽しみにしています。初めは、ピアノの先生からの紹介で、この音楽会のあることを知り、入会しました。とかく、音楽会の数が少ないと言われがちなこの浜松で、年に4回は確実に音楽会に行き、生の音を聴けるのはたいへん良い企画だ、と気に入っています。最初のうち、今だにピアノと遊んでいる（というよりピアノに遊ばれているのかな？）私としては、何よりもそちらの方面を目的としていましたが、現在にいたっては、今まで興味がほとんどと言っていいほどなかった室内楽や管楽器類のコンサートの方が、ずっと楽しみになってしまいました。この現象は、この音楽会のおかげかもしれません。そしてもうひとつの“現象”は、ラジオを聞いていると、聞き覚えのある曲の流れてくることが増えたことです。「あ、これはあの音楽会のときに演奏された曲ではないか！」と思いつつ、母に自慢してやるのは、もうほとんど快感(?)です。ところが、こんなに楽しみにしていても、どうもトロい私は、だいたい2年に1回は音楽会の日をころっと忘れてしまうことがあります。あと、今私は一応高校生なので、テスト直前などに音楽会があったりすると、どうしても勉強を捨てきれずに行けないことなどがありました。そういう時など、券を睨みながら、「なんでこういう日に



したんだろう」と、勝手なことを考えながら、この券は3倍くらいで他の人に譲ろうか……などと考えてしまったりします。（実際にしませんけど。）とにかく私にとっては、音楽会が終わってバス停までとことこと坂を下りて行くときが、最高に幸せな気分なのです。そんなわけで、スタッフの方達には、これからも素晴らしい音楽を私達に聴かせて下さるよう、一生懸命がんばって下さい。特に、私の好きな管楽器の演奏会など、もちろんピアノのリサイタルも、さらに贅沢にオーケストラも——などと思っている今日この頃です。

ふれあい音楽会に参加して

2児の母 鈴木由美子

私が浜松音楽友の会の「ふれあいコンサート」に初めて参加したのは、長男は2才半、2男はまだお腹におりました。夫に保育のあるコンサートがあるから行ってみたいと勧められたのがきっかけです。それまではコンサートを聴くなどとても考えられる状態ではありませんでした。夫は仕事で毎日帰りが遅く、幼い子供を抱えた身では遠い世界の出来事のような存在でした。ですから何も考えず、ただただコンサートの間お世話をしてくださることが有り難く申し込みました。

そのようにスタートした年4回のコンサートでしたが、子供はいつのまにやら泣きべそだったのが、遊べるのが楽しみで終わった日から次回の保育を楽しみにするようになり、2男も生後半年からお世話をさせていただきました。長男も今では小学校1年生、2男も3才半になりました。「僕もコンサートを聴きたい」と言うようにもなりました。私も毎回楽しみにしております。特に印象的でしたのは、安部圭子さんのマリンバです。今まであまり聴く機会がなく、あのように素晴らしいとは知りませんでした。

いつの日か、家族でコンサートを楽しめるようになりたいと常々思っておりましたので、近い将来そんな日が現実に迎えられるそうです。会費も家族で楽しめる額と思います。こんな素敵な会がいつまでも続くことを心より願います。



浜松音楽友の会は素晴らしい

浜松市富塚町 佐野基人

浜松は、楽器は造っても、音楽は作らない、という話をよく聞きました。しかし、よくよく見ると、浜松には色々な音楽的催し物が、ずいぶん多いのに驚いています。

私は音楽友の会が主催する演奏会には、出来る限り行って、古今東西の名曲を聴こうと思っています。しかし、私は音楽のことはまるっきりの素人で、音階のことや和音といったものはむずかしくて、さっぱりわかりません。

ですから、音色を感覚の上で聴いて、単純に楽しむことにしよう、とそんな風に思っています。

演奏会は、生の企画ですから、演奏者の表情やしぐさが、曲の進行に伴って熱く伝わってくるようで、とても感動を覚えます。

また、演奏の合間に行なわれる、例のインタビューや、演奏者同志で話し合う雑談は、色々な意味で大変興味深く拝聴しています。時には、余りの熱演に、演奏者を通してあの大作曲家達が、ステージによみがえったのではないかと、錯覚することも、しばしばありました。

そして、今迄の演奏家は、おしなべて弁の立つ事にも驚いています。その上、快いユーモアと、率直で温厚な人柄を持ち合わせている点にも、蜜からな私は、深い感銘を受けています。

そういった作曲家や演奏家の心を、浜松の市民に、また、浜松を音楽のわかる街にしようと、日頃、手造りで活動している音楽友の会には、正直いって、私は脱帽しています。

お知らせとお願い

1989年 コンサート予定

春 千住真理子 ヴァイオリンリサイタル

夏 仲道 郁代 ピアノリサイタル

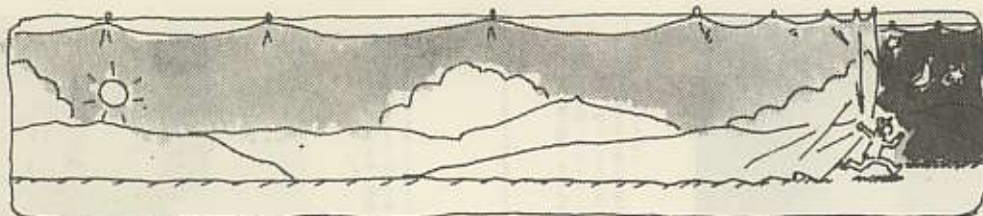
秋 豊田喜代美・木村俊光 歌の夕べ

会員だより 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。

会員登録 は年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は住所 氏名 電話 会員番号を御記入の上前年度の10月末日迄に事務局宛退会の旨御連絡下さい。

名義変更の方も葉書に旧会員と新会員の住所 氏名 電話 会員番号(旧会員の)をお書きの上事務局宛お送り下さい。



「音楽友の会」設立の思い出

代表 佐藤安子

早いもので音楽友の会が発足して5年目となりました。皆様の暖かい御支援と御協力に支えられて、ここまで続ける事が出来たことに大きな喜びを感じております。

これを機会に設立の時の事など思い出すままに書いて、みようと思います。この会は、三城苑子さんの発案・提唱により先ず静岡で発足しました。静岡では、もう会員の募集が終った頃、浜松でも姉妹関係としてやってみないかと現在事務局をしている安倍紀子さん共々、誘われました。ボランティアでやれば、安い会費で素晴らしい一流の演奏家の演奏が聴けるといふこの会の主旨に、本当に素晴らしいことだと感激し参加しました。

初めての会合に8名が集まり、皆意欲に燃えて役割を決めました。しかし素人の私達女性が全く新しい大きな仕事を始める事が、いかに大変かは、活動を始めてすぐ思い知らされました。様々の障害や計画通りに運ばない事が沢山できて、スタッフも動揺しました。そこで、この時点で新しいスタッフも加わって計画を練り直し、本当に運営していけるのか。会員は、どのようにして多勢集めるか。大いに考え話し合いました。この会議で情熱と、やる気をお互いに確かめ合ったことによりスタッフの信頼関係が強固になり、その後の活動に拍車がかかりました。とにかく会員は最少でも千人は集めなくては収支が合いません。それからの1ヶ月は必死で会員集めに走り廻りました。人が多勢集まる所なら、どこでも出かけました。演奏会、講演会、合唱の練習場等々、知らない人々に前に音楽友の会の主旨を説明することは、いささか抵抗がありました。しかし次第に使命感に燃えて話す事ができる様になり我ながら驚きました。又あらゆる友人・知人をお願いしましたが、この会の主旨に共鳴し、多勢の会員を集めてくださった方が10名以上もいて、大きな励みとなりました。

こんな具合に頑張って、第1回久保陽子・弘中孝ジョイントリサイタルには1500名を超える会員を集める事ができました。一流の演奏家の演奏を低料金で聴けること、保育室がある事等評価されたものと考えました。

しかし「安いからどうぞ御家族で」「お子様も御一緒に」と多くの人を誘いましたので、クラシックの演奏会に初めての人。どんな音楽をするのか、わからず来た人。子供のグループ等。客席は演奏が始まっても騒然としていました。何とか拝み倒して応援に来ていただいた当時の教育長の相佐明一さんのインタビューの後、私も舞台上に顔を出し「どうぞ静かに聴いてください」とお願いした様な有様でした。そんな中でも久保・弘中両氏は一言も文句を言わず、素晴らしい演奏をしてくださった事は今もってスタッフの語り草です。

しかし回を重ねるごとにマナーも良くなり今ではこの会の聴衆のマナーは、なかなかのものと自負するまでになりました。初めての保育室は楽屋だったのですが、泣き声の大合唱が、何と客席まで届く程で、私も生後半年位の赤ちゃんを抱きながら、大変なものを始めてしまったとつくづく感じていました。初回からの2人の保母さんとお子さん達も、今ではすっかり顔なじみです。

このように初めの頃は全くの素人がしている事で事務的なミスが多く御迷惑をおかけした事もありましたが、皆様の暖かい御理解を得て何とか乗り切ってまいりました。又演奏会の運営も慣れたとはいえ、まだまだ反省する点が多い私達です。今後も素晴らしい演奏を皆様と一緒に楽しむ為に頑張りたいと思っております。

会員の皆様の末長いおつき合いをお願いして、今回の思い出話を終わらせていただきます。

10月28日(金) 7:00PM

ギャリック・オールソン ピアノリサイタル

バルトーク:ピアノ・ソナタ
ドビュッシー:映像(第2集)
ショパン:バラードNo.2、守歌、スケルツォNo.3ほか



12月4日(日) 7:00PM

藤原真理チェロリサイタル

バッハ:組曲
ラフマニノフ:チェロ・ソナタ
組曲「風の谷のナウシカ」ほか



ガリック(二重奏)・アリゲリック(大衆)を共に
次いで第八回ショパンコンクール(一九七〇
年)優勝、甲から甲まで決して落ちることのな
い素晴らしい音楽で古典から現代作品まで幅広い
レパートリーをもつ

第四回音楽コンクール一位大賞、チャイコフ
スキー国際コンクール第二位
日本を代表するチェリストとして国内外で広
く活躍中。